

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 村山市

1 事業の趣旨・目的

1) 〈学習の場〉

村山市や近隣地域に在住する外国籍を持つ人たちが、地域の中で、いきいきと幸せに暮らし
ていくための日本語学習の場を設けること。

2) 〈日本語レベルの向上〉

日本語初級 A・B、日本語中級 C・D の 4 クラス編成とし、それぞれの日本語習得レベルに応じ、
きめ細かな指導を行いながら、学習を進めること。

3) 〈グッドコミュニケーション〉

外国人どうし、あるいは日本人との良好なコミュニケーションができるようになること。

4) 〈友達の輪の形成〉

教室に集い、ともに楽しく学ぶことにより友達の輪を広げ、ともに生きることを喜び合える
ようにすること。

2 運営委員会の開催について

【概要】 2 回開催

開催日時	出席者	議 題	会議の概要
平成 23 年 2 月 4 日 (金)	(委員) 黒沼幸善 青柳フヂ子 村川啓子	①文化庁・日本語教室運営 事業について	1) 文化庁の委託を受け今年度 も実施できていることはと ても喜ばしい。教室運営の励 みとなっている。
〔会場〕 村山市役所 3 階第 2 委 員会室	水野清平 富樫 勉 平 富子 (事務局) 井澤豊隆企画主査	②日本語教室運営の在り方 について	2) ・テキストを中心にやってい るが、生活教室なども必要。 ・日本語をなりたいという ニーズはあるのだろうが、 受講生希望者へどう周知す るかが課題。 ・週 1 回では物足りないと感じ ている人もいて、それにど う対応できるか検討したい。

			・近隣市町からの受講生もいる。今年も情報交換が必要か。 ・小中学生などで、外国人として転校してきた場合などのために、「サポートセンター」的なものがあるといい。行政での対応を待つ前に自分たちでできることを検討してはどうか。 ・講師のレベルアップのために、研修会を開催したり、先進教室との情報交換の場も持ちたい。 ・受講生のニーズに沿った形での教室運営を行うため、アンケートをとりたい。(次回まで「案」の作成)
平成 23 年 3 月 3 日 (水) 〔会場〕 甌葉プラザ ラウンジ	(委員) 黒沼幸善 青柳フヂ子 村川啓子 水野清平 富樫 勉 平富子 (事務局) 細谷健一企画主幹 井澤豊隆企画主査	①研修会について ②教室運営のこれまでと今後の在り方について	1) 研修：仙台市内の日本語教室を視察してみたい。案も複数ある。今後詰めていきたい。 2) アンケート：案の検討 ・なるべくシンプルに、A4 用紙 1 枚裏表程度の簡単な内容にすべき。何を目的に受講しているか、何を望んでいるかを聞いたうえで教室運営を行いたい。 ・受講生のニーズがどのあたりにあるのかを見るためには、アンケートは重要。 3) 会場：現在の会場（環境改善センター）は、部屋の数も多く、習熟度別のクラス編成ができるので都合がいい。 ・受講生は、教室を楽しみにしており、毎回熱心に通ってくる人が多い。 ・新年度は、「テキスト学習」だけでなく、実際の生活ですぐに役立つように、生活の場面

			での疑問質問や生活文化などを学ぶ、「生活学習」なども入れながら、より実践的なカリキュラムを組んでいけるようにしていきたい。
--	--	--	---

【写真】(会議風景の写真を1～2枚)



〈図1〉第1回運営委員会（2011/2/4）



〈図2〉第2回運営委員会（2011/3/3）

3 日本語教室の開催について

① 日本語教室の名称 村山日本語教室

② 開催場所 村山市農村環境改善センター

③ 学習目標

1) 日本語レベルの向上

日本語初級2コース、日本語中級2コースの計4コース編成とし、それぞれの日本語習得レベルに応じ学習を進め、半年で、テキストを終えられるように努力する。

2) グッドコミュニケーション

外国人どうし、あるいは日本人との良好なコミュニケーションができるようになることをめざす。

3) 友達の輪の形成

教室に集い、ともに楽しく学ぶことにより、ともに楽しく学ぶことにより友達の輪を広げ、共に生きることを喜び合えるような関係になること。

④ 使用した教材・リソース

(1) 新日本語の基礎Ⅰ【基本テキスト】

(2) 新絵教材Ⅱ（初級レベル語学教育用）

(3) みんなの日本語初級Ⅰ「書いて覚える文型練習帳」

(4) 中級から学ぶ 日本語ワークブック

⑤ 受講者の募集方法

(1) 市の広報紙

○2010 年 3 月号の市報等に掲載し、新規開講をお知らせ

(2) チラシ

○市民課の窓口や公共施設等に配備

(3)ホームページ

○市のホームページに掲載

⑥ 受講者の総数 15 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 54 時間 (全 36 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回 (※)	開催 日	曜 日	時間数	参加 人数	国籍・母語 (人)	教授者・ 補助者人 数	内 容
①	4/7	水	1.5 時 間	10 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	・オリエンテー ション ・自己紹介 ・テキスト学習 /使用教材『み んなの日本語 初 級 I 本 冊』の使い方p p..2-5 他
②	4/14	水	1.5 時 間	11 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (8 人) フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第1課」1～4 /会話:初めま して
③	4/21	水	1.5 時 間	11 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (7 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第2課」/会 話:ほんの気 持です
④	4/28	水	1.5 時 間	10 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第3課」/会 話:これをくだ さい
⑤	5/5	水	1.5 時	10 人	中国・中国語 (2 人)	教授者	テキスト学習/

			間		韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	5 人	同上教材使用 「第4課」/ 会 話: そちらは 何時から何時 までですか
⑥	5/12	水	1.5 時 間	10 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第5課」/ 会 話: 甲子園へ 行きますか
⑦	5/19	水	1.5 時 間	11 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (7 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第6課」/ 会 話: いっしょに 行きませんか
⑧	5/26	水	1.5 時 間	9 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 復習 A
⑨	6/2	水	1.5 時 間	10 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第7課」/ 会 話: ごめんく ださい
⑩	6/9	水	1.5 時 間	10 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第8課」/ 会 話: そろそろ 失礼します
⑪	6/16	水	1.5 時 間	7 人	中国・中国語 (1 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第9課」/ 会 話: 残念です
⑫	6/23	水	1.5 時 間	10 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第10課」/ 会 話: チリソース はありません か

⑬	6/30	水	1.5 時間	10 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第11課」/会 話:これお願 いします
⑭	7/7	水	1.5 時間	10 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タ 3 ログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第12課」/会 話:お祭りはど うでしたか
⑮	7/14	水	1.5 時間	9 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第13課」/会 話:別々にお 願いします
⑯	7/21	水	1.5 時間	9 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 復讐 B
⑰	7/28	水	1.5 時間	11 人	中国・中国語 (4 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第14課」/会 話:梅田まで 行ってくださ い
⑱	9/1	水	1.5 時間	10 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第15課」/会 話:ご 家 族 は?
⑲	9/8	水	1.5 時間	11 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (7 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第16課」/会 話:使い方を 教えてください
⑳	9/15	水	1.5 時間	10 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「17 課」/会 話:どうしまし

							たか
21	9/22	水	1.5 時間	8 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第18課」/会 話: 趣味は何 ですか
22	9/29	水	1.5 時間	12 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (8 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第19課」/会 話: ダイエット はあしたからし ます
23	10/6	水	1.5 時間	11 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 復習 C
24	10/13	水	1.5 時間	10 人	中国・中国語 (4 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (0 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第20課」/会 話: 夏休みは どうするの?
25	10/20	水	1.5 時間	11 人	中国・中国語 (4 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第21課」/会 話: わたしも そう思います
26	10/27	水	1.5 時間	10 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第22課」/会 話: どんなア パートがいい ですか
27	11/3	水	1.5 時間	11 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (7 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使 用 復習 D
28	11/10	水	1.5 時間	9 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第23課」/会 話: どうやっ

							て行きますか
29	11/17	水	1.5 時間	10 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第24課」/会 話: 手伝って くれますか
30	11/24	水	1.5 時間	11 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 「第25課」/会 話: いろいろ お世話になり ました
31	12/1	水	1.5 時間	10 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 復習 E
32	12/8	水	1.5 時間	11 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 助詞～フォー ムの使い方 pp..216-223
33	12/15	水	1.5 時間	10 人	中国・中国語 (3 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 副詞、副詞的 表現～接続の いろいろ p p..224-227
34	12/22	水	1.5 時間	9 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (5 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 全体の復習と 質問
35	3/2	水	1.5 時間	7 人	中国・中国語 (2 人) 韓国・韓国語 (3 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 総復習 1
36	3/9	水	1.5 時間	12 人	中国・中国語 (4 人) 韓国・韓国語 (6 人) フィリピン・タガログ語 (2 人)	教授者 5 人	テキスト学習/ 同上教材使用 総復習2

⑨ 特徴的な授業風景(1 回分)

(特徴が最もよく表れた日の授業報告を詳細に記載。また、教室風景の写真を添付。)

●特徴が最もよく表れた日の授業報告

平成 22 年(2010 年)12 月 8 日(水)

午後 7 時過ぎ : 講師、スタッフが会場に到着(会場の準備に入る)

午後 7 時 20 分: 受講生が続々会場に集まる

午後 7 時 30 分: 受講生が小会議室に集合し、全体会

(あいさつ、出欠確認、話題、イベント(クリスマス会)の紹介など)

午後 7 時 40 分:各クラスへ移動(4 クラス/初級 A、初級 B、中級 A、中級 B)

午後 7 時 45 分～9 時 30 分:クラス別学習(テキスト学習)

例)初級 A (テキストに沿って、順序どおり)

- ・指導者が、本日のテキストの内容を説明
- ・()の穴埋めなどしながら、テキストを進める。
- ・指導者の言ったあとを、受講生が言ったりしながら聞き取り、話し方の練習。
- ・質問は、後回しにしないで、随時指導者に聞きながら進める。
- ・最後に、今日のレッスンの復習や感想を述べ終える。

午後 9 時 30 分 :あいさつして解散

●【村山日本語教室の特徴】

A.きめ細かな指導(全体指導のあとは、マンツーマンに近い形で、それぞれ受講者の習得状況に応じて、指導をうけることができる)

B.テキストを有効活用し、体系的に指導(テキスト学習が基本)



〈写真の説明〉

①	③
②	④

〈図 3〉 ①と②: 村山日本語教室の全体での授業風景 (2011/3/9)

③と④: 習得レベルに合わせ、マンツーマンでのきめ細かな指導が特徴 (2011/3/9)

～(テキストのみならず、独自教材やホワイトボードなども多用しながら進め、受講者の習熟度に応じた指導とニーズに応じた授業を心掛けている。)

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏 名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
黒沼幸善	韓国語(韓国)	20 年	5 回	授業, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏 名	所 属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
佐藤 剛	村山市国際クラブ 代表	元中学校教諭(英語)	3 回	アドバイザー
早坂 幸起	村山市国際クラブ 事務局長	精密機械製造会社 社長	3 回	アドバイザー
青柳忠夫	村山市国際クラブ 顧問(前代表)	元高等学校教諭(英語)	2 回	アドバイザー

4 事業に対する評価について

1) 当初の学習目標の達成状況

(1) 日本語レベルの向上

- ・テキスト中心に学習を着実に進めるといったやり方のため、受講生が出席すれば、レベルアップが図られ、テキスト1冊が終わる頃には、日本語レベルが、確実に上昇していることが手に取るようにわかった。
アンケート等を取り、受講生一人ひとりのニーズに即した講座内容にできればもっとよくなると考えている。

(2) グッドコミュニケーション

- ・この教室の目的は、ほかの人と良好なコミュニケーションを取れるようにすることである。教室に毎回通い、熱心に学んだ受講生であればあるほどは、コミュニ

ケーションの力が着実にについていった。

- ・言語の学習は、「慣れ」と「熱意」と「記憶」（繰り返し）が大切。

(3) 友達の輪の形成

- ・教室に集い、毎回顔を合わせるにより、国籍を超え、友達になる人が多く、また、途中で、「クリスマスパーティ」、あるいは「国際交流の夕べ」などのイベントやお楽しみを兼ねた交流会を開催したことにより、数々の友情の輪が形成された。

2) 学習者の習得状況

- ①個人差はあるものの、皆んな熱心に教室を受講し、それぞれの習得レベルの向上が図られた。
- ②テキストを活用した無理のないカリキュラム編成のため、課 (Lesson) ごとに、着実にレベルアップが可能であった。
- ③予習復習をしてくる受講生とそうでない受講生の間には、やはり差が出てきてしまう。
- ④日本語の習得レベルは個人差が非常に大きいため、マンツーマンの指導が適しており、本教室は、講師としての協力者の数も比較的多く、きめの細かい指導が可能のため、それぞれの進度に合わせた指導ができ、その分、受講生のレベル向上も大いにはかかれたものと自己評価している。

3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

①モチベーションの向上

- ・行政が、日本語教室運営に初めて関与したが、行政がサポートしてくれているということで、運営スタッフのモチベーションも向上することにつながった。

②広報・PR等におけるサポート体制

- ・PRや広報の面で、行政の果たす役割は大きく、今回の設置運営をきっかけに、この面での強化が図られた。

③広域的なニーズへの対応

- ・今回の委託を受けての教室設置により、近隣市町の日本語教室との「情報交換会」を開催するに至り、さまざまな情報交流をすることができた。市町村の境界を越え、受講生は、日本語教室を受講したいというニーズにも応えることができたことは非常によかった。

4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

①国際交流イベントの共催、ネットワークの広がり

- ・市の「国際交流の活性化」を主なミッションとする「村山市国際クラブ」のスタッフからの支援を得ることができた。この組織と連携することにより、「クリスマスパーティ」などの楽しみ企画への参加や、ネットワークの広がりを受講生も得ることができた。

②近隣教室との情報交換会

- ・広域的な視点で俯瞰すると、受講生は、市町村の境界を越えて通ってくる。昨年度、近隣教室との情報交換会を行ったが、近隣教室と連携することで、それぞれの教室の特徴を活かしながら、より複層的な教室運営が可能となることが分かり、今年度は、このことを教室にも活かしていくことを心がけた。

③行政との連携

- ・市役所の担当部局との連携を密にし、市民のニーズと行政とができることのマッチングを心がけながらの

教室運営を心掛けた。

5)改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現 状

(1) 指導者と指導日(開講日)について

- ・初級 2 クラス、中級 2 クラスとしており、きめ細かな指導を行うため、主たる指導者は 4 クラスで 5 人配置している。
- ・講師陣としては全部で 10 人いる。
- ・開講日は、毎週水曜日(会社の多くが「ノー残業デー」に設定しているため。)

(2) 受講生について

- ・受講者は、全部で 15 人。
- ・中には、妊娠したり、家庭の事情や職場などの事情からか、途中から休講した人もいる。

(3) 教室(講座)の進め方について

- ・「テキスト」を使用し、テキストの「課(レッスン)」「(ページ)」を進める形で進行。

b. 今後の課題

(1) 指導者について

- ・指導日は、毎週水曜日のみ(週 1 回)としているが、もっと回数を増やしてほしいという要望がある。しかしながら、指導者陣の都合もあり、週あたり複数回実施するというのは、なかなか厳しい状況にある。(県都である山形市には、週複数回実施している教室もあるが、山形市までは遠い距離にあるため)、受講生のニーズには、対応しきれていないのが現状。
- ・講師陣は、クラス(4つ)の倍以上はいるが、なかなか忙しいメンバーが多く、もっと指導者陣を増やし協力体制をしっかりとさせていくことが望まれる。
- ・習得希望者(受講生)からみれば、短期間に、日本語を習得したいという希望がある。また、日本語検定を受講したいという受講生もあり、その要求、要望(ニーズ)になるべく応えていきたいと考えている。

(2) 受講生について

- ・費用対効果の面からすれば、受講生の数が、もう少し増えるといいと考えている。
- ・しかし、受講生からは、「マンツーマン」に近い形で受講できることが、非常に好評を得ている。現在の状況は、ベストではないが、ベターな形と思っている。

(3) 教室の進め方等について

- ・テキスト中心で進めているが、習得者は、「生活者」でもあり、実際の生活に即した教室内容も取り入れながら進めることも必要であると考えている。たとえば、買い物、ゴミの出し方の場面を、実地講習も含めやっていけるとより実践的になると考えている。
- ・年間カリキュラム(シラバス)を予め示しながら、教室運営をしていければよいのではないかと。しかしながら、受講生の出席状況に応じ、臨機応変にできる柔軟さが、この教室の良さでもある。今後の大きな課題としたい。

c. 今後の活動予定, 展望

(1) 教室の開講と改善

・平成 23年度も引き続き「村山日本語教室」を開講していく。やり方等は従来通りであるが、少しずつ改善を加えていきたい。

今年度から、「アンケート」をとり、受講者のニーズを捉えながら、進めていきたい。テキスト中心の学習から、実地における場面などもより一層加えながら進めていきたい。

(2) 近隣教室との連携、情報交流

・近隣自治体にある「日本語教室」との情報交換会を昨年度、試行的に 1 回行ったが、その結果、情報交流は非常に有意義であり、今後、定期的に、情報交換会を開催していくということで合意が図られた。今年度は、まだ交流事業をやってはいないが、「ゆるやかなネットワーク」を築いていることは重要で、今後も機会を捉え、近隣教室との交流、情報交換を行っていきたい。

(3) 広報活動の充実 ～受講希望者への周知とサポートセンター的機能保持に向けて～

・教室の開講の周知を行って、必要とする外国人のサポートをできるだけ行っていきたい。
行政にも協力を求め、また行政や報道機関等とも連携しながら、広報をより充実させていきたい。

・生活者としての外国人で、小中学生で支援を必要としたら、いつでも動けるように、「サポートセンター」的機能を常時持てるような体制にしていきたい。そのために、近隣市町と情報交換を密にし、先進事例の研究をしておき、そして行政からの要請にいつでも応えられるようにしていきたい。

6)その他参考資料

特段なし